

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401335		
法人名	有限会社 藤田企画		
事業所名	グループホーム 佃の里		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町永中名47-1		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日々の支援を行う中で、利用者様との会話やレクリエーションの時間を増やし、日々の生活の中で利用者様の好きなことや興味のあることを行えるような時間作りをしている。
 ・会社での毎月の研修を活かし、新人職員からベテラン職員まで常に初心を忘れず、利用者様一人ひとりにあった支援をしっかりと行えるようにしている。
 ・職員が働きやすい環境作りに努めている。小さい子供がいる家庭などに周りの職員が声を掛け合っ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、コロナ禍の中、友人や家族からの手紙のやりとりを支援したり、入居者の趣味を把握し、裁縫ができる方には洋服や雑巾の縫物のほか季節の飾り物を職員と一緒に裁縫したり、個別の新聞購入やレクリエーションの時間を増やすなど、地域交流の自粛に代替できるよう支援している。ホーム全体での外出を自粛しているが、病院受診を利用した外出や、個別に蓮園に行ったり、近くの小学校に咲く桜を見に行くなどのほか、玄関先でベンチで手作りの蒸しパンを食べられるよう支援するなど、入居者がコロナ禍でも気分転換を図れるよう取り組んでいる。食事は職員の手づくりにより家庭的でバランスを考えたものを提供し、魚は骨がないものを注文し、知人から旬の野菜の差し入れや、ちらしずしやおはぎ、蒸しパンなどは入居者の好み合わせて調理し提供している。必要に応じてエアマットや低反発マットを導入し、褥瘡予防に努めている。現在、機械浴導入の補助申請を予定しており、重度の方の入浴支援や職員の負担軽減に繋げる計画である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員を目指し、近隣との付き合いを大切にしている。職員の入れ替わりが多々あるため、実践につなげることがなかなかできないときもあるが、管理者が日々声かけを行いながら、また職員会議などで声かけし、実践につなげていく。	ホームの事務所内に理念を掲示し、職員の出勤時や休憩時等を通じて周知している。管理者は理念を踏まえ、「お客様の満足」を追求し、理念を職員の個人目標に反映させるなど、具体的に介護実践に繋がるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の中学校、小学校からの体験を受け入れている。コロナで今は受け入れが難しいが、過去には交流の時間を作り、利用者もとても喜ばれていた。	コロナ禍により近隣の小・中学生の体験学習を通じた交流は中止した。ホームの玄関には透明のビニールカーテンを設置し、感染対策を講じた上で交流できるよう配慮している。近隣への散歩時には地域住民と挨拶を交わしたり隣接するデイサービスセンターの利用者と交流するなど地域との交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況を知らせると共に地域の情報など話題としている。ご家族への参加も面会の折りなどを利用して呼びかけているがなかなか時間が合わず参加が難しい。	コロナ禍の為、運営推進会議は職員のみで実施しており、後日、会議録を運営推進会議の構成メンバーへ送付している。入居者情報のほか、健康状態、ヒヤリハット・事故報告等を会議録に載せホームの現状を報告している。	コロナ禍の為、運営推進会議は書面会議にて実施しているが、報告のみに留まっているため、今後管理者は意見書を同封し発送する予定である。書面会議であっても推進会議のメンバーが意見を出しやすいよう工夫し、より地域からの意見を取り入れて運営に反映していくよう今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会などで報告し様々な視点からの意見をいただき相談相手になってもらっている。やってほしい研修会などを提案している。地域ケア会議へ参加し、情報提供を行っている。	行政よりオンライン研修の案内やコロナ感染対策の情報や助言を受けるなどホームの状況を伝えながら不明な点は電話や直接窓口に出向き、問い合わせしている。管理者は依頼があれば地域ケア会議へ参加する意向である。市のグループホーム協議会に所属し、地域の様々な情報を入手するなど協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で身体拘束を取り入れて、何が拘束なのかをスタッフが共有し常に良い方向を探している。社内での介護職員の研修会や社外の研修に積極的に参加させ再度スタッフへの周知徹底、指導を行っている。	訪問調査日において身体拘束が必要な入居者はいない。シルエットセンサーを夜間のみ使用している方がいるが、入居者の行動制限にならないよう配慮し、家族にも同意を得た上で使用している。年に2回、職員に対してEラーニングや集合研修を通じた身体拘束に関する研修を実施し、身体拘束や虐待のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より困難な介護については全員で共有し、一人で抱え込まないように声に出すようにしている。また、一人一人の介護技術を見てどこまでが虐待につながるかなど注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての紹介を行っている。勉強会への参加もしている。広域基礎研修等への参加を促し学ぶ機会を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項については十分に行っている。又、後日の質問についても納得されるまで説明をし、同意を得ている。いつでも問い合わせができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や希望は届きにくいのが現状だが、面会に来られた際などに家族からの意見などが聞かれないか聞き出し、運営に生かし利用者家族が満足いく運営ができるよう努力している。また、通信などを定期的を送付するなどご家族へ安心していただけるようにしていく。	コロナ禍の為、家族との面会を制限し、家族の希望に応じて電話や短時間(10分程度)の面会としている。3か月ごとに入居者の写真と家族への一言を添えたホーム便りを送付している。職員は入居者との会話から要望や意見などを聴き取り、業務日誌や申し送りノートにより共有している。	コロナ禍により入居者と面会制限の状況下にあり、不安感を募らせている家族がいる。家族の不安感の理解に努め、特に入居期間が浅い家族や面会に訪れることができない家族には、電話等での状況報告の頻度を増やすなど家族の思いを汲み取り、不安感の軽減と信頼関係の構築に繋がるよう今後の取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の間には大差がない、気付きを取り入れ、よりよい運営を目指している。毎月の職員会議での職員の意見・提案ができるように、努力している。	職員はミーティング等を通じて具体的なアイデアや提案を率直に伝えており、日頃から話しやすい環境である。自己評価表に基づいた面談を管理者や専務と行い、職員が実践状況を振り返りながら職員意見を聞き、やりがいや働きやすい職場環境となるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の見直しを行い、資格等向上意欲が持てるよう改善している。また、改善点などを聞き、受け入れ、可能な事は改善し働きやすい就業環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護労働安定センター等の紹介による講師を招き『介護技術』『医学の知識』『リスクマネジメント』等、法人内の研修を合同で行っている。また、人事評価を一人ひとりの力量把握をして指導等行っている。わからないことがあれば聞き対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修会等への参加を義務付けている。個々に研修内容を選んで受講している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族よりの情報提供を出来るだけ詳しく聞く。入所後はスタッフが詳しく観察し連携を図り、利用者の安心・安全を確実にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どこまで要望に答えられるかをはっきり相手に伝え、その中でよりBESTな方法を提案し要望に近い状態へ持っていけるように対応している。 また、こちらからも良い提案をさせていただき相談させて貰っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって何が今一番必要なのかを行動・言動を職員間の情報共有から見極め、支援サービスに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症とか弱者とか隔たりなく生活している。どうかすると利用者がしっかりされている時がある。「皆家族」の雰囲気の中で入所者・スタッフが共に生活している。泣いたり・笑ったりの繰り返し。 時間があると常に利用者との会話・レクリエーションを楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に共に支えあえる関係でありたいし、本人にとって家族が一番。 信頼関係を築くには共に歩くより他はない。利用者様との会話の中でご家族に話などを聞き家族との絆を再確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所・友人などが気軽に立ち寄る雰囲気作りを行っている。デイサービスに來られたり、整骨院の帰りに寄られたり、自治会の方の面会もあり交流が続いている。 現在では、コロナ過で訪問が難しい。	コロナ禍の為、馴染みの人や場所との交流を自粛している。友人や家族からの手紙のやりとりを支援したり、職員が入居者へ趣味を聞き、裁縫ができる方には洋服や雑巾の縫物のほか季節の飾り物を職員と一緒に裁縫したり、個別に新聞を購入するなど、交流自粛に対し代替できることを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者間の橋渡し役となりコミュニケーション作りを行い、なかなか話す機会のない利用者と話す時間を作ったり、ロビーに集まりやすい環境を整え、よい環境作りができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後もご家族との付き合いもあり時々、近所に来られたり立ち寄りされたりされる。退所時にも、一声、かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人主体で動かれている困難な時は家族と相談して家族に協力できるところは協力していただきできない時は職員で対応している。	入居者の生活歴や家族から本人の趣味や嗜好を把握し、その方に適した支援を検討している。レクリエーション時や日々の生活を通じて入居者本人が自ら選択できるよう支援し、その方が反応を示したものを把握し、必要に応じて介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何よりもご本人の生活歴がサービスの基本である。ご家族や本人との会話の中より把握しレクリエーションの時間などに利用者の方の好きだった事など行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の体調に合わせて臥床を促したり、ロビーにてレクリエーションに参加していただいている。長期入所でだんだん能力も低下していることを家族へも伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	忙しい時間でなかなか、座る時間もないのでスタッフ間の立ち話も無駄にしない、情報は宝であり毎月職員間の話の時間を作りしっかりとどんな小さなことでも、情報交換・共有を行っている。	定期的に介護支援専門員(専務)が入居者の状況を確認し、各担当職員より入居者の課題抽出と本人の要望や身体の状態を把握し、現状に即した介護計画の立案に努めている。ケアプランチェック表を用いて日々の実践上で介護計画の実施状況を記録するとともに職員が介護計画の内容を把握して実践できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに細かく記入し、いつだれが見ても振り返りができるように指導し、記入漏れがないか確認を行い確実にを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの協力を得ながらその時の状態に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りが田園地帯であり季節感が肌で感じることが出来る。又近くに小学校があり子供たちの元気な声が聞こえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ協力医療機関での受診であるが、中には以前からのかかりつけ病院での受診の方もおられるつながりを大切にしていきたい。	職員はホームの協力医療機関や近隣の医療機関への受診に際しては同行支援している。遠方の医療機関を受診する場合は家族に協力を求め、困難な場合には受診に同行している。歯科は本人や家族の希望により往診がある。受診時には個人記録や日誌等を持参して円滑に受診できるよう入居者の情報を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師は外部との契約であるが、とても熱心で相談も心安くできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合はほとんどが協力医療病院であるので 相談がしやすい。家族との連携も取りやすい。 家族対応などが難しい時などをホームが協力できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時看取りの説明を行っている。必要となってきたとき改めて家族・医療機関との話し合いを持ち、どのように対応するか決めている。 また、職員も看取りについて学んで、対応ができるようにしていきたい。	入居時に家族へホームでの看取りの方針を説明し同意を得ている。看取り支援の実施は1事例あるが、現状の体制では看取りの対応をすることが難しいと管理者は思慮しており、今後は職員への看取りの研修や医療との連携体制を充実させていく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より急変については予期し、スタッフで共有している。対応はマニュアル化しすぐに対応できるように見えるところに掲示している、また急変時対応の勉強会にも積極的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難誘導訓練・自主訓練等行っている。災害対策等はスタッフの中にいる地区消防団員が中心になって行っている。また地域の自衛消防の大会などに参加して一人一人の意識向上に努めている。職員が必ず参加できるように勤務調整をし災害に備えての準備ができるようにしている。	今年度の避難訓練はコロナ禍の為すべて自主訓練とした。訓練は昼夜想定で実施し、隣接する同法人のデイサービス事業所と合同で行っている。職員に消防団員がおり訓練の際には指導や助言を活かしている。ホームにはAEDを設置している。また、ハザードマップを掲示して避難経路の確認に活かしている。	今年度、防災訓練(地震)を実施する予定であったがコロナ禍により実施できなかった。昨今、気候変動により自然災害のリスクが増加していることから、防災計画や防災マニュアルの職員周知を図るとともに、机上を含めた自然災害を想定した訓練実施やBCPの策定を視野に職員の防災意識を高め取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの言葉がきつくないか常に気に留めるようにしている。気にかかるような対応があった場合は職員が変わり対応している。	職員は入職時に個人情報に関する守秘義務の誓約書を提出している。個人が特定できる入居者写真の使用に関して家族より同意を得ている。職員は接遇に関するEラーニング研修を受講し、声掛けや対応等接遇マナーに配慮した支援に努めるとともに、研修受講状況を専務が把握・管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の希望を聞くようにしている。希望があれば家族へ伝えている。又家族の思いを本人に伝え、自己決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調により対応し本人の希望がある場合は時間を作り希望の対応ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調により対応し本人の希望がある場合は時間を作り希望の対応ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の機能低下により見守り、介助が必要となり一緒に食事をすることができなくなった。準備等はできる方にはお願いをして一緒に行ってもらっている。	職員の手づくりにより家庭的でバランスを考えた食事を提供している。魚は骨がないものを注文し、知人からの旬の野菜の差し入れや、ちらしずしやおはぎ、蒸しパンなどは入居者の好み合わせて調理し、また、アレルギーについても把握して提供している。入居者の嚥下・咀嚼能力に応じ、キザミ食やミキサー食を提供し、食事制限がある方には医療機関の栄養士が作成した献立表に基づいた食事を提供している。	